

## ワークシート（第 11 章 EPISODE）

## EPISODE 11-1

## ● 学校を休みがちな f さん

f さんは小学校 5 年生のときから不登校状態となり、進学を機に引っ越して、別の校区の中学校に通い始めました。しかし、順調な学校生活は数日間しか続かず、2 週目からは体調不良を訴えて早退したり欠席したり、保健室で過ごしたりすることが増えていきました。

担任は、f さんがまた不登校状態に戻ってしまうことを危惧しています。クラスに友だちもでき、教室では楽しそうに過ごしているので、通学することを習慣化してほしいと考え、早退や欠席をした日は必ず電話や家庭訪問でその日の学級の様子や課題について連絡をしています。保護者も f さん本人の意思を聴き、中学校にも相談したうえで引っ越ししてきたという経緯から、毎日少しの時間だけでも学校に行くよう、欠席や保健室登校で授業を受けられない際にも課題には取り組むよう励ましています。保護者の要望を受けて、保健室とは別に、学習するための別室が設けられることにもなりました。しかし、f さんの状態は悪化し、f さんに対する特別な対応を不満に思う別の生徒の保護者からクレームが入るといことも生じ、f さんへの対応も学級経営も難しい状況となってしまいました。

## EPISODE 11-2

## ● g くんからみた状況

「心のアンケート」を実施したところ、小学 6 年生の g くんについて、「ストレスが特に高い」という結果が示されていました。このアンケートは基準を超える数値が示された場合、スクールカウンセラーによるカウンセリングの希望について、本人に確認するような仕組みになっていました。そこで担任から確認したところ、g くんはカウンセリングを希望しました。

担任はあまり饒舌<sup>じょう</sup>ではない g くんがちゃんと話をできるのか心配していましたが、初回カウンセリングでは、g くんの方からいろいろと話をしてくれました。g くんは自分のストレスが高いことに驚いたものの、最近「だるい」「眠い」という気持ちになって授業に集中できていないことや、友だちから嫌なことを言われて喧嘩になったのに先生（担任）が味方をしてくれなかったこと、自分や人に対して嫌な気持ちになっても、家では幼いきょうだいがいるし、先生はわかってくれないので自分の気持ちが言えないことなど、思い当たることはあるということでした。

## ● 担任からみた状況

カウンセリングが終わった後、スクールカウンセラーと担任で、g くんについての情報共有を行いました。スクールカウンセラーからみると、g くんはいろいろと身体的な不調や人間関係への不満を抱えており、それをうまく解消できないことからストレスを感じているようにみえました。しかし、それを担任に話すと、g くんは感情がすぐ顔や行動に出てくるタイプで、仲間もそれをおもしろがっているようなところがあるため、g くんをからかわないように友だちへの対応をまず行ったことから、「味方をしてくれなかった」ととられたのかもしれないということでした。担任からは、g くんは最近自分より学力が下だと思っていた友だちにテストで負けてしまったことで、さまざまなことに敏感になっているように見えるということでした。

- 本章での学びを踏まえて、EPISODE 11-2 を次の視点で検討してみましょう。
- ① 「gくんからみた状況」だけを踏まえて、gくんからみた困難は何かを整理してみましょう。
- ② 「担任からみた状況」も踏まえて、改めてgくんの困難を整理してみましょう。その上で、担任、スクールカウンセラー、それぞれの対応について考えてみましょう。

(記入欄)

①「gくんからみた状況」だけを踏まえて、gくんからみた困難は何かを整理してみましょう。

②「担任からみた状況」も踏まえて、改めてgくんの困難を整理してみましょう。その上で、担任、スクールカウンセラー、それぞれの対応について考えてみましょう。

記入者名：

(日付： 年 月 日)